



80. Love

TOKYO FM

報道各位

PRESS RELEASE

2012年1月5日

2012年 TOKYO FM コミュニケーションズ・グループ年賀式 ～2012年1月5日(水)午前10時30分 TOKYO FMホール～

<代表取締役社長 富木田 道臣 挨拶(抜粋)>

昨年は東日本大震災ならびに原発事故、またグローバルな政治経済の混迷など、かつてない激動の年でありました。それに加え今年は主要各国で大統領選、ならびに国家主席の交代が予定されるなど、世界情勢に大きな影響を与える出来事も控えており、変革のうねりは益々加速して行く事が予想されます。我々の業界もその縮図であり、予断を許さない状況が続いていくと思われま

す。このような変革の時代には、柔軟な適応能力を発揮し自ら変革できなければ、淘汰されることを強く認識する必要があります。TOKYO FM を新しいメディアに創り変える心意気をもってクリエイティブ・イノベーションにチャレンジしなければなりません。

さて、東日本大震災ならびに原発報道を起点に、編成制作局をはじめグループ全社が、被災者や聴取者の事をこころから想い、ひとつひとつの言葉を選び、1曲1曲の歌詞を吟味し、思いやり溢れるメッセージを伝え、人々の心に響く放送やヒューマンケア・イベント展開を実践し続けました。様々な活動の根幹である思いやりと優しさが深い共感呼び、ソーシャルメディアで波紋のように拡がり、TV、新聞などにも取り上げられ、メディアの公共的責任を全うすると共に、当社ならびに JFN の存在をあらためて皆様に知って頂けることになりました。

このことは、「アースコンシャス」「ヒューマンコンシャス」という2つの理念にかかわる領域に於いては誰にも負けないコンテンツを自ら生み出したが由縁であり、忘れてはならないことです。

そして、クリエイティブ・イノベーションのベースとして、優しさと思いやりを放送活動の根幹に置くことを、いついかなる時も意識して頂きたいのであります。このコンセプトを継続的に実践していくことによりメディアとしての「存在感」を高め、ひいてはアイデンティティの明確化へつなげることが出来ると確信しております。

また、今期は収益面においても、逆境を跳ね返し、素晴らしい成果を上げてきています。真正面から新たな価値を提案することにテーマを持ち、自らの力を信じて、キー局としてネットワーク再生の使命感をもって取り組んで来ています。

一方で、今年は、マルチメディア放送の最終実証実験に取り組みます。ラジオ広告費が縮小していく中、マルチメディア放送への進出はまさに「前門の虎、後門の狼」ではありますが、真に心豊かな社会を創るという夢を持ち、社を挙げて新しいメディア創造に取り組んで行きたいと思

います。自由闊達でクリエイティブでコンプライアンス重視の行動指針をベースに、将来を見据え、自らを信じ、夢を持って、クリエイティブ・イノベーションに取り組む年にしましょう。

どうぞ皆さま、今年も宜しくお願い致します。